

IV. 校内研究

1 研究のテーマ

『自ら学び，自ら考え，自分を表現できる子どもをめざして』

～「主体的な課題の解決」に視点を置いて～

2 研究の重点（柱）

- ①主体的・協働的に問題発見・解決するといった場面での活用→知識技能の定着
- ②主体的・協働的に問題発見・解決する場面での経験→自身の向上
- ③課題を設定し見通しをもった取り組み→自己形成

学校教育法第30条第2項では、学校教育において重視すべき三要素を、「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」としている。これをもとに考えると①何を知っているか・何ができるか。②知っていること・できることをどのように使うのか。③どのように問題に向かっていくか・どのように自己を高めていくか。目的達成のために、これらを育てていく必要があると考える。知識・技能は、主体的・協働的に問題発見・解決するといった場面において、活用することで定着する。思考力・判断力・表現力は、主体的・協働的に問題発見・解決する場面を経験していくことで自身の向上となり、課題を設定し見通しをもった取り組みは興味・関心がわき、自然と努力していく中で自己形成とつながっていくと考える。

3 研究の内容

- (1) 「主体的な課題の解決と振り返り」のある授業実践・・・ブロック研究。
 - ①問題解決的な学習の具体的実践（日常の授業）と実践交流。
 - ②見通しを立てて課題を解決する力を育てる授業づくり。
 - ③アクティブラーニングを手段とし子どもたちが主体的に学習する授業づくり。
 - ④振り返り活動の中で伝え合う力をつける工夫。
 - ⑤「伝え合い」を通じた問題解決的な学習活動のある授業提案・研究会による指導力の向上。
 - ⑥問題解決学習や体験学習を取り入れながら、「考え，議論する道徳」の授業実践と交流。
- (2) 伝え合いを支える読書活動の充実・・・領域研究。
 - ①読書活動を盛んにするための手立ての工夫
（読書に親しむ機会の設定・読み聞かせ・本の紹介・感想などの交流・町立図書館との連携・図書室の環境整備…など）
- (3) 伝え合いを支える言語環境の充実・・・領域研究
 - ①教室内外の、「伝え合い」を促す掲示の工夫。
 - ②美しい言葉に触れられる環境・豊かな感性を創造する環境の整備。
 - ③音読の日常化や発表機会（ことばの集会を含め）の計画。
- (4) 伝え合いを支える関係づくりの充実……学級作り・集団作り
 - ①学級づくりを進める上で、互いを認め合い支え合う関係作りに重点を置く。
 - ②縦割りの集団活動を通して異学年との交流を深め、楽しい学校づくりに努める。
 - ③子ども一人ひとりを認め、伸ばす指導・支援のあり方を考え、実践する。
 - ④各学級の様子などを交流し合い、一緒に考えたり、学び合ったりする。
- (5) 研究仮説検証
 - ①研究仮説に関わる児童の意識調査を行う。
 - ②児童の変容を考察する。
- (6) 生命の教育
 - ①「平和集会」の計画・実践・まとめ。